

# アマチュア 『疑心暗鬼』

プロとアマチュアの違いは、  
自然を見方に付けたか、敵にまわしたか。



バリューゴルフ  
**VALUE GOLF**  
www.valuegolf.co.jp

コロナによる自粛期間を味方にして、勝利をもぎ取ったのは、ブライソン・デシャンボーだった。

メジャー大会である「全米オープン2020」(9月17日〜9月20日、ニューヨーク州ウイングドフットGC)が新型コロナウイルスの影響で、異例づくめの中間開催された。当初は、6月開催だったのが9月開催に変更、さらに無観客試合という環境となり、スタッフ、選手共に苦勞も多かったと思うが、開催できたことは素晴らしい。因みに、秋まで環境が整わなかったことを考えて、主催の全米ゴルフ協会は、11月に西海岸での開催も考えていたようだ。

今大会を制覇したのは、ブライソン・デシャンボー。彼の武器のドライバーの飛距離は、最長360ヤードをマークしている。そして、他の選手と決定的に違ったのは、あの深いラフからでもボールを打ち出してグリーンオンさせるパワーだった。全米プロ覇者のコリン・モリカワやタイガー・ウッズが予選で姿を消すほど厳しいコースコンディションであったウイングドフットGC。このような優秀な選手たちが苦しめられた深くて、粘着性の高いライグラスのラフと、グリーンオンしても転がり落ちてしまう硬いグリーンを相手に攻略していた。因みに、ドライバーの平均飛距離が最も飛んでいたのは、あのダスティン・ジョンソン(333.6ヤード)。つまり、ゴルフは、飛距離と技術という新しい時代に入ったと思う。

そして、もう一つ彼が優勝した背景には、距離を出すための大幅な肉体改造があった。世界中で既に話題になっているが、コロナの影響でシーズンを中断した数カ月間、まるで別人のごとく筋肉をつけ、185センチ、110キロの身体で、見た目はプロレスラーのような姿で登場した。プロ入り間もない2016年から体重を18キロ以上増やしているが、彼いわく

「体脂肪率は1〜2%増えたが、それほど増えてはいない。なかなか信じてもらえないが、体重は脂肪ではなく筋肉で増やしている」

のだそうだ。食事制限からはじまり、プロテイン摂取まで徹底的に管理、スイングスピード、ボールスピードも研究しつくし、コロナ禍をうまく過ごした成果ではないだろうか。

期待されたタイガー・ウッズは、予選落ちしたものの、「ZOZOチャンピオンシップ(10月22日〜10月25日)」と「マスターズ」などで再び我々の期待を集めるであろう。そして、今回、3日目まで優勝の可能性のあった松山英樹も、我々の応援を背に受けて、奮闘するに違いない。それと、もちろん、デシャンボーの新しいゴルフスタイルが、再び評価されることになるだろう。



戸張 捷 Sho Tobaru

1945年、東京生まれ。高校からゴルフを始め、3年で全日本ジュニア3位、大学4年で日本アマ9位。住友ゴム工業(現SRIスポーツ)に入社後、株式会社ダンロップスポーツエンタープライズへ出向。トーナメントディレクター、プロデューサーとして日本ゴルフ界に貢献した。現在は、ゴルフキャスターとして活躍するほか、ゴルフトーナメントやイベントのプロデューサー、コンサルティングなども手掛けている。